

科目名	医科医療事務(講義)				担当者名	岡田 一哉	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	8単位 (120時間)
実務経験	総合病院人事課(4年間) 整形外科クリニック事務長(12年間) 居宅介護支援事業所管理者(11年間)			資格等	介護支援専門員 福祉住環境コーディネーター2級		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

- ・医療技術の進歩はめざましいものがあり、福祉の仕事を行ううえで医療事務は欠かせないものになっています。医療保険制度を理解し、医療機関の収入である診療報酬の請求方法について学びます。
- ・外来および入院の診療報酬算定知識・診療報酬明細書作成技術を取得し、以下の資格取得を目標とします。
医科医療事務検定試験(3級・2級)

《評価方法》

- ・成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象は、D評価(59点以下)の者とします。
- ・成績評価に際し、定期試験(学科および実技)の評価のほか、出席日数、受講態度、小テスト、宿題提出状況、検定試験に対する取組状況等を加味して行います。
なお定期試験については、授業中講義を聞き洩らさない事が得点につながる内容とします。

《履修上の留意点》

- ・授業中は、私語、居眠りをしないこと。
- ・配布資料や解いた問題は、各自ファイリング、項目ごとに分類して整理をしてください。
(定期試験も検定試験も、基本的には資料等は持ち込んで行うものですので、テキストや解いた問題も含めて、整理が求められます。提出をお願いすることもあります。)
- ・宿題は、期限の厳守をお願いします。
- ・自宅では復習に励んでください。きちんと理解できなかった部分は見直しを行い、その上で分からないことは、質問を行うなどし、理解に努めてください。
- ・テストの点数や理解度が一定の基準に達しない場合は、別途、補習を行うことがあります。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
診療報酬早見表(医科)		医学通信社	
診療報酬完全攻略マニュアル		医学通信社	

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	保険のしくみ・制度について、被保険者証・診療録の見方	
第2回	〃	
第3回	医療関連法規、レセプトの書き方について、レセプトの頭書き	
第4回	〃	
第5回	初診料	
第6回	〃	
第7回	再診料	
第8回	〃	
第9回	投薬料①	
第10回	〃	
第11回	投薬料②	
第12回	〃	
第13回	注射料	
第14回	〃	
第15回	医学管理料	
第16回	〃	
第17回	処置料①	
第18回	〃	
第19回	処置料②	
第20回	〃	
第21回	手術料①	
第22回	〃	
第23回	手術料②	
第24回	〃	
第25回	手術料③(輸血料・麻酔料)	
第26回	〃	
第27回	レセプト演習	
第28回	定期(前期)試験	
第29回	試験の解説とまとめ	
第30回	レセプト演習	

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第31回	前期の復習/検査料(検体検査①)	
第32回	〃	
第33回	検査料(検体検査②・病理学的検査)	
第34回	〃	
第35回	検査料(生体検査)	
第36回	〃	
第37回	画像診断料①	
第38回	〃	
第39回	画像診断料②	
第40回	〃	
第41回	在宅療養/精神科専門療法・リハビリテーション・放射線治療	
第42回	〃	
第43回	レセプト演習	
第44回	〃	
第45回	入院料①	
第46回	〃	
第47回	入院料②	
第48回	〃	
第49回	レセプト作成を中心とした練習問題①	
第50回	〃	
第51回	レセプト作成を中心とした練習問題②	
第52回	〃	
第53回	レセプト作成を中心とした練習問題③	
第54回	〃	
第55回	レセプト作成を中心とした練習問題④	
第56回	〃	
第57回	レセプト演習	
第58回	定期(後期)試験	
第59回	試験の解説とまとめ	
第60回	レセプト演習	

科目名	教養演習(講義)				担当者名	飯干 真冬花	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	精神科病院、行政機関、障害者就業・生活支援センターでの相談支援業務(約7年)			資格等	・修士(社会福祉)・社会福祉士・精神保健福祉士・SSW教育課程担当教員研修会修了・精神保健福祉士演習担当教員研修会修了・社会福祉士・精神保健福祉士実習指導者講習会修了		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

この授業では以下のことを目標に進めていきます。

- (1)心身ともに安定した学校生活を送ることができる。
- (2)就職に必要な知識やマナーを身につける。
- (3)就職のイメージを持ち国家試験への意識を高める。

《評価方法》

平常点、レポート等を総合して評価します。

＜評価方法の詳細＞

・平常点(出席状況、受講態度、積極性等):50%

・課題成果(レポート等の提出物):50%

※この授業では平常点の割合が高いため、欠席や授業中の態度(私語、携帯電話の使用、福祉を学ぶ者としてふさわしくない言動)等について特に注意して評価します。

《履修上の留意点》

- (1)出席・欠席の管理は自身で行ってください。出欠の状況が分からない時は、教員に聞き確認をしてください。
- (2)授業に遅れそうなときや欠席をする場合は、事前に連絡を入れてください。
- (3)何事も、分からないことや困ったことがあったらまず相談してください。抱え込まないように。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
マイロード21	就職指導研究会	実教出版	就活力アップシリーズ

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	個人面談、2年次の振り返りと3年次の目標設定、就職キャリアシート記入	
第2回	個人面談、実習の振り返り用紙記入	
第3回	個人面談、実習の振り返り用紙記入	
第4回	実習の振り返り・まとめ	
第5回	YG性格検査	
第6回	自己理解	
第7回	働く意味・大切さについて考える	
第8回	求人表の見方	
第9回	履歴書・封筒の書き方	
第10回	送付書の書き方、受験報告書と進路届の説明	
第11回	入退室時のマナー	
第12回	面接対策・練習	
第13回	面接対策・練習	
第14回	面接対策・練習	
第15回	前期の振り返り、授業アンケート記入	
第16回	実習発表会の準備	
第17回	実習発表会の準備	
第18回	実習発表会の準備	
第19回	実習発表会の準備	
第20回	実習発表会の準備	
第21回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第22回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第23回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第24回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第25回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第26回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第27回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第28回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第29回	面接指導 + 就職内定へ向けたブラッシュアップ	
第30回	1年の振り返り、授業アンケート記入	

科目名	更生保護制度（講義）				担当者名	高崎敏和	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	後期	単位	2単位（30時間）
実務経験	法務省職員（法務事務官・法務教官）として35年勤務 名古屋矯正管区教育課長、福岡刑務所教育部長、四国少年院長、筑紫少女苑長、人吉農芸学院長、沖縄女子学園長、矯正研修所福岡支所教官、その他の職種を歴任			資格等	仮釈放等関連業務、生活調査・調整関連業務、更生保護機関（地方更生保護委員会・保護観察所・更生保護施設）・公共職業安定所との連絡調整業務、裁判所との連絡調整業務、検察庁・警察との連絡調整業務等の実務経験		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

犯罪や非行を起こした人たちの中に、高齢や障害等のために自立が困難な人たちが存在することを理解させ、社会の中でどのような福祉的支援が必要か、更生保護法令に基づき実施されている現状と将来的課題等について学ばせるほか、卒業後の社会福祉士国家試験受験を前提にして、その出題傾向等を理解させる。

《評価方法》

成績評価は、定期試験の結果及び出席状況（出席日数、受講態度）から総合的に行うものとする。成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象は、D評価（59点以下）の者とする。なお、定期試験を受ける条件は10日以上出席した者とする。受講態度は、授業に対する取り組み方を評価するものとし、授業に対する積極性、意欲及び勤勉さについて考慮する。

《履修上の留意点》

授業はテキスト及び配布資料に基づき実施するものとし、授業中に必要な筆記は配布資料の余白に行わせる。法令用語等が難解であるため、基礎的内容を繰り返し教授するとともに、原則として予習は特に求めず、復習に重点を置くものとする。基礎的内容については、別途資料を配布し、必要な部分について補習を行う。社会福祉士国家試験の過去問題（配布資料）に対する回答を考えさせることにより、出題の傾向等を理解させるほか、解説をとおして理解が不十分な点等を明らかにする。成績評価の方法（定期試験の受験条件を含む。）及び受講中の態度（学習の仕方や居眠り・私語の禁止）については、第1回の授業の中で教示する。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
更生保護制度（第4版）	新・社会福祉士養成講座 編集委員会	中央法規	新・社会福祉士養成講座20

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	更生保護制度の概要 ①刑事司法の中の更生保護	
第2回	更生保護制度の概要 ②仮釈放等	
第3回	更生保護制度の概要 ③保護観察	
第4回	更生保護制度の概要 ③保護観察 ④更生緊急保護	
第5回	更生保護制度の概要 ④更生緊急保護・犯罪被害者等施策	
第6回	更生保護制度の概要 ⑤恩赦・犯罪予防活動	
第7回	更生保護制度の担い手 ①保護観察官・保護司	
第8回	更生保護制度の担い手 ②更生保護施設・民間協力者	
第9回	関係機関等との連携 ①裁判所・検察庁	
第10回	関係機関等との連携 ②矯正施設・児童相談所・職業安定所・自治体等	
第11回	医療観察制度の概要 医療観察法に基づく処遇制度・地域社会における処遇等	
第12回	社会福祉士国家試験過去問題による演習等	
第13回	更生保護制度(基礎知識)の復習	
第14回	定期試験	
第15回	定期試験の解答・解説 更生保護の実際と今後の展望	
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ（講義）				担当者名	矢部 航	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位（60時間）
実務経歴	大学職員（ボランティアコーディネーターや実習に関する事務等）2年間			資格等	修士（社会福祉） 社会福祉士 社会福祉士実習演習担当教員講習会・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 修了		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

- ① 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
- ② 相談援助の対象とさまざまな実践モデルについて考える。
- ③ 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。
- ④ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
- ⑤ 相談援助の実際について理解する。

主な授業内容

- ・人と環境の相互作用 ・様々な実践モデルとアプローチ
- ・ケースマネジメントとケアマネジメント ・相談援助における社会資源の活用・調整・開発
- ・ネットワーキング ・集団を活用した相談援助 ・スーパービジョン ・相談援助と個人情報の保護の意義と留意点
- ・相談援助における情報通信技術（IT）の活用 ・事例分析 ・相談援助の実際

《評価方法》

- ・成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象はD評価（59点以下）の者とする。
- ・原則として、定期試験での得点率が60%未満の者は再試験の対象となる。
ただし、この基準については、問題の難易度や得点分布等により補正することがある。
- ・定期試験のほか、出席状況や受講態度、小テスト、レポート課題等を加味して評価を行う。

※評価割合：

定期試験 85%

授業への参加度 15%（出席状況、受講態度、小テストやレポート課題による効果測定等をふまえて評価する。）

《履修上の留意点》

- ・私語や居眠りをせず、積極的に授業に参加すること。
- ・配布資料については、時系列にファイリングするなど、配布資料と授業内容の対応関係がわかる状態で保管すること。
- ・予習・復習を行った上で授業に参加すること。
予習の方法：教科書等を事前に読み、不明な語句があれば事前にその意味・内容を調べておく。
（予習が必要な箇所については、授業内に指示する）
復習の方法：十分に理解できなかった部分については教科書を読み返して復習し、その上で分からないことは質問する。
- ・課題の提出を求められた場合には、様式・提出期限を厳守すること。
- ・授業の進行状況や理解度に応じて、授業内容・授業計画を変更する場合がある。
- ・定期試験や小テストの結果、理解度が一定の基準に達していないと判断される場合には、別途、補習を行うことがある。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
相談援助の理論と方法Ⅱ	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	新・社会福祉士養成講座

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	社会福祉援助活動の概念と定義／相談援助の対象／社会福祉士認定制度	
第2回	ケースマネジメントの目的・構成要素・過程	
第3回	ケースマネジメントにおけるアセスメントの意義・目的・方法 ケアプランの意義・作成・実施	
第4回	グループワークの意義・基本的枠組み・展開過程	
第5回	自助グループを活用した相談援助	
第6回	コーディネーションの意義・目的・方法・技術・留意点	
第7回	ネットワーキングの意義・目的・方法 地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化	
第8回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	
第9回	相談援助における社会資源の活用・調査・開発の方法と留意点 ソーシャルアクションによるシステムづくり	
第10回	さまざまな実践モデルとアプローチ① -治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル	
第11回	さまざまな実践モデルとアプローチ② -心理社会アプローチ、機能的アプローチ	
第12回	さまざまな実践モデルとアプローチ③ -問題解決アプローチ、課題中心アプローチ	
第13回	さまざまな実践モデルとアプローチ④ -危機介入アプローチ、行動変容アプローチ	
第14回	前期試験	
第15回	前期試験の解説	
第16回	さまざまな実践モデルとアプローチ⑤ -エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ	
第17回	さまざまな実践モデルとアプローチ⑥ -認知アプローチ、その他のアプローチ	
第18回	スーパービジョンの意義・目的・方法・留意点	
第19回	コンサルテーションの意義と目的	
第20回	ケースカンファレンスの意義・目的・展開過程	
第21回	相談援助における個人情報の保護	
第22回	相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用	
第23回	事例研究の意義・目的・方法・留意点	
第24回	事例分析の意義・目的・方法・留意点	
第25回	相談援助の実際①	
第26回	相談援助の実際②	
第27回	相談援助の実際③	
第28回	相談援助の実際④	
第29回	後期試験	
第30回	後期試験の解説	

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉におけるリハビリテーション(講義)				担当者名	瀬戸山 淳	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	精神科医療機関等に約30年 (臨床心理士・精神保健福祉士)			資格等	臨床心理士・精神保健福祉士		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

本教科の意義のねらいは、「精神障害者へのリハビリテーション」についての国際的な動向、わが国の動向、その基礎理論と臨床活動を学ぶことにより、精神保健福祉士として不可欠な専門知識を習得することにある。そして、これらの過程を通して国家試験への準備に繋げることを目標としたい。

毎回の授業についてはテキスト及び関連の文献を集約した資料を用い、これらの資料をスライドにして進め理解を深めたい。

《評価方法》

成績評価に際し前期については関連論文の英文抄録の邦訳を主体としたレポート、後期については期末試験を行う。これらレポート及び期末試験の評価のほか、出席日数や授業中に講師側から口頭で質問する形の課題などを加味して評価を行う。なお、成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象はD評価(59点以下)の者とする。

《履修上の留意点》

・授業態度について

精神保健福祉士を目指す学生として、私語や居眠りをしないなど常識的態度を求める。

・配布資料について

授業項目に応じた必要な資料(論文や文献、また独自作成した追加資料など)を多数配布するため、項目ごとに整理して復習の教材、また国家試験の受験勉強の教材とすること。

・レポート等の提出について

提出期限の厳守を求める。

・予習並びに復習について

予習については毎回、次回の授業範囲を示すので、その該当範囲のテキスト及び配布した資料を熟読しておくこと。また復習については授業中に疑問に思った点などを項目にまとめて次の授業で質問すること。

・補習

レポートなどより、理解度が一定の基準に達していない場合は、別途補習を行うことがある。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神保健福祉士養成セミナー⑤ 精神保健福祉におけるリハビリテーション	精神保健福祉士養成セミナー 編集委員会	へるす出版	精神保健福祉士 養成セミナー5

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	「しろうがい」とは？	
第2回	精神障害を理解するために①	
第3回	精神障害を理解するために②	
第4回	精神保健福祉士と精神障害リハビリテーション	
第5回	精神障害リハビリテーションの基本的枠組み ～リハビリテーションの概念～	
第6回	精神障害リハビリテーションの基本的枠組み ～精神障害リハビリテーションの概念～	
第7回	精神科リハビリテーションの基本的枠組み ～精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割～	
第8回	精神科リハビリテーションの構成と展開 ～精神科リハビリテーションの対象～	
第9回	精神科リハビリテーションの構成と展開 ～精神科リハビリテーションにかかわる専門職～	
第10回	精神科リハビリテーションの構成と展開 ～精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業～	
第11回	精神科リハビリテーションの基本プロセス	
第12回	精神科リハビリテーションのプロセス ～精神科リハビリテーションの展開～	
第13回	精神科リハビリテーションのプロセス ～疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション～	
第14回	老年期の特徴とリハビリテーション(認知症に焦点をして)	
第15回	前期授業の振り返りと期末レポート課題の説明	
第16回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～作業療法～	
第17回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～集団精神療法～	
第18回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～認知行動療法～	
第19回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～社会生活技能訓練～	
第20回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～心理教育～	
第21回	精神科リハビリテーションにおける支援技法 ～チームアプローチ～	
第22回	精神科リハビリテーションサービス ～デイケアおよびナイトケア～	
第23回	精神科リハビリテーションサービス ～居住支援～	
第24回	精神科リハビリテーションサービス ～就労支援～	
第25回	地域を基盤としたリハビリテーション ～地域生活支援とネットワーキング～	
第26回	地域を基盤としたリハビリテーション ～仲間による地域生活支援～	
第27回	地域を基盤としたリハビリテーション ～精神保健福祉ボランティア～	
第28回	これからの精神保健福祉士に必要な知識と技術について	
第29回	後期期末試験	
第30回	後期期末試験の解説と授業のまとめ	

科目名	精神医学（精神疾患とその治療）（講義）				担当者名	福田 秀次	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位（60時間）
実務経験	昭和47年～精神科医として勤務 現在は、河野名島病院 副院長			資格等	医師免許 精神科 精神保健指定医		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

1. 多様になりつつある精神疾患－そのお互いの関係を含めてTotalに把握してもらう。
2. その中でも中心的課題である統合失調症を社会復帰の観点からどう考えるかをつかんでもらう。
3. 精神保健福祉法と新たに成立した自立支援法について、その関係性と今後の推移について理解してもらう。

《評価方法》

仕事の性質上、〈みる〉〈きく〉〈書く〉ことは、一体的にできるようになってほしいので、試験、評価の仕方も記述式を中心に行う。

《履修上の留意点》

授業中の私語は慎む。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神医学 精神疾患とその治療-	精神保健福祉士養成セミナー 編集委員会	へるす出版	精神保健福祉士養成 セミナー1

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	精神医学と歴史を中心として、精神医学、精神疾患をどう考えるについて	
第2回		
第3回		
第4回		
第5回	総論、検査法など	
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	精神疾患の各論	
第10回		
第11回		
第12回		
第13回	精神疾患の各論	
第14回	定期試験	
第15回	定期試験解答解説	
第16回	精神疾患の各論	
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回	法律(精神保健福祉法、自立支援法etc)と各種社会資源をめぐって	
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回	法律(精神保健福祉法、障害者自立支援法)と各種社会資源をめぐって	
第29回	定期試験	
第30回	定期試験解答解説	

科目名	精神障害者の生活支援システム(講義)				担当者名	大山 和宏	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	・雁の巣病院や西岡病院の精神保健福祉士 ・現在は、一般社団法人えのき舎 代表理事			資格等	・精神保健福祉士 ・介護支援専門員		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

- ① 精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて理解する。
- ② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。
- ③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。
- ④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。
- ⑤ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。

《評価方法》

- ・ 講義の出席を重視し、授業態度・レポート・定期試験の内容を踏まえ総合的に評価する。

《履修上の留意点》

- ・ 講義内で行うグループワークなどを通し、積極的な意見を出すなど主体的な学習態度にて望んで欲しい。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神障害者の生活支援システム	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	新・精神保健福祉士養成セミナー

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス①	
第2回	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス②	
第3回	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス③	
第4回	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①	
第5回	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②	
第6回	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化③	
第7回	精神保健福祉法の概要①	
第8回	精神保健福祉法の概要②	
第9回	精神保健福祉法の概要③	
第10回	精神障害等の福祉制度の概要と福祉サービス①	
第11回	精神障害等の福祉制度の概要と福祉サービス②	
第12回	精神障害者に関連する社会保障制度の概要①	
第13回	精神障害者に関連する社会保障制度の概要②	
第14回	定期試験	
第15回	解説とまとめ	
第16回	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者①	
第17回	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者②	
第18回	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者③	
第19回	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者④	
第20回	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係①	
第21回	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係②	
第22回	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係③	
第23回	医療観察法の概要と実際①	
第24回	医療観察法の概要と実際②	
第25回	医療観察法の概要と実際③	
第26回	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査①	
第27回	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査②	
第28回	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査③	
第29回	定期試験	
第30回	解説とまとめ	

科目名	精神保健学(精神保健福祉の課題と支援)(講義)				担当者名	稲富和弘	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)31年			資格等	精神保健福祉士・社会福祉士・修士(福祉社会)		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

精神保健に関する基本的な概要を整理した上で、ライフサイクルごとの精神保健の現状や課題、また、精神障害、認知症、アルコール、薬物等の精神保健における個別課題への取り組み、精神保健活動の実際の取り組みなどを通して、精神保健福祉士として必要な精神保健に関する知識、および援助技術の習得を目的とする。

《評価方法》

前期、後期に定期試験を実施する。
授業中に実施する小テスト、感想文等も評価の対象とする。
また、出席、平常点においても、著しい遅刻や怠惰な受講態度(手ぶらや他の学生の妨げとなる私語やメールなど)には厳しく対処し評価する。(状況に応じ、ノート提出を求め平常点に加味する。) 成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象は、D評価(59点以下)の者とする。

《履修上の留意点》

・予習、復習を行ない、分からないことは適宜質問する等、積極的に理解に努めること。
・基本的には教科書の単元に沿って進めるが、授業中、要点を整理するためのレジュメや、模擬問題、資料等を多く配布します。
配布プリント、資料を有効に活用し、各自で適切に保管、整理を行なうこと。
・テストの点数や理解度が一定の基準に達していないと判断される場合は、別途、補習を行なうこともある。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神保健学-精神保健の課題と支援-	新版精神保健福祉士養成 セミナー編集委員会	へるす出版	精神保健福祉士 養成セミナー2

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	オリエンテーション(講義にあたって)	アンケート
第2回	精神保健に関する基本的理解	
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 ①乳幼児期における精神保健	
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 ②学童期における精神保健	
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 ③思春期における精神保健	
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 ④青年期における精神保健	
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 ⑤成人期における精神保健	
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 ⑥老年期における精神保健	
第9回	精神保健における個別対策	
第10回	精神障害者対策①	
第11回	精神障害者対策②	
第12回	認知症対策	
第13回	アルコール関連問題対策	
第14回	前期総まとめ(前期試験対策)	
第15回	前期試験	
第16回	前期試験 解答・解説	
第17回	薬物防止乱用対策	
第18回	思春期精神保健対策	
第19回	地域精神保健対策	
第20回	司法精神保健対策	
第21回	緩和ケアと精神保健	
第22回	精神保健福祉活動の実際①	
第23回	精神保健福祉活動の実際②	
第24回	地域精神保健の現状と課題	
第25回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	
第26回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携	
第27回	世界の精神保健	
第28回	後期総まとめ(後期試験対策)	
第29回	後期試験	
第30回	後期試験 解答・解説	

科目名	法学(権利擁護と成年後見制度)(講義)				担当者名	西 貴倫	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	前期	単位	2単位 (30時間)
実務経験	大学および専門学校の講師(8年)			資格等	法学修士		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

この講義では、日本の法体系と成年後見制度の基本的なしくみについて解説します。
日本の法体系と成年後見制度の基本的なしくみを理解することは、要支援者の権利擁護を効果的に行う上で重要です。
日本の法体系と成年後見制度の基本的なしくみを理解し、より効果的な権利擁護を目指しましょう。

《評価方法》

成績評価基準は学則第21条によるが、再試験の対象はD評価(59点以下)の者とする。
試験(100点)と2度の小テスト(各10点)の得点で成績評価を行う。
100点を満点とし、超過分は切り捨てる。

《履修上の留意点》

法律用語に慣れるため、毎回予習・復習を行うこと(最低でも各30分程度)。
予習ではテキストの該当箇所(初回に指示する)を読み、少なくとも読めない漢字については読み方を確認しておくこと。
復習では講義で配布したプリントを見直すこと。
プリントを見直してもわからなかったことについては次回質問すること。
試験の点数や理解度が一定の基準に達しない場合は補講を行うことがある。
私語や居眠りが目に余る場合は欠席扱いとすることがある。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
権利擁護とソーシャルワーク	上田晴男、小西加保留、池田直樹(編著)	ミネルヴァ書房	新・基礎からの社会福祉 8

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	はじめに—ソーシャルワークと権利擁護	
第2回	憲法規範としての権利擁護—自由・平等・生存権	
第3回	民事における権利擁護①—総則	
第4回	民事における権利擁護②—契約法	
第5回	民事における権利擁護③—不法行為法	
第6回	民事における権利擁護④—家族法	
第7回	行政法と権利擁護①—社会福祉制度と行政法	
第8回	行政法と権利擁護②—代表的な社会立法	
第9回	成年後見制度と権利擁護①—後見人制度とは？	
第10回	成年後見制度と権利擁護②—後見人の選任	
第11回	成年後見制度と権利擁護③—後見人の任務	
第12回	成年後見制度と権利擁護④—後見人制度の活用	
第13回	おわりに—権利擁護の現状と課題	
第14回	試験	
第15回	解答・解説	
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (講義)				担当者名	井上 明信	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	精神科病院、精神障害者施設(地域活動支援センター等)、相談援助業務(10年間)			資格等	精神保健福祉士、相談支援専門員 等		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

- ・障害者福祉の理念と精神障害者の人権について学ぶ。
- ・精神保健福祉の歴史と理念、法律、施策等についての理解を深める。
- ・精神保健福祉士の理念、意義、専門性、業務内容等を理解する。
- ・精神障害者のソーシャルワークと関連専門職種との連携調整等について理解を深める。

《評価方法》

- ・平常点、課題成果、定期試験等を総合して評価する。

<評価方法の詳細>

- ・平常点(出席状況・受講態度等): 30%
- ・課題成果等: 20%
- ・定期試験: 50%

《履修上の留意点》

- ・授業の妨げとなる行為(私語・居眠り・携帯電話の使用等)は、減点の対象とする。
- ・配布資料については、きちんとファイリングし、紛失することのないよう自己管理を行うこと。
- ・課題提出については、期限厳守とする。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神保健福祉の理論と 相談援助の展開	精神保健福祉士養成セミナー 編集委員会	へるす出版	精神保健福祉士養成セミナー第 4巻

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	オリエンテーション・障害者福祉の理念と精神障害	
第2回	精神障害者の人権について	
第3回	障害者権利条約の理念	
第4回	精神障害および精神障害者について	
第5回	精神保健福祉と精神障害者福祉	
第6回	精神保健福祉の歴史と理念①	
第7回	精神保健福祉の歴史と理念②	
第8回	精神保健福祉の現状と展望①	
第9回	精神保健福祉の現状と展望②	
第10回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ①導入期	
第11回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ②混乱期	
第12回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ③展開期	
第13回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向 ④拡大期	
第14回	前期試験	
第15回	試験問題解説	
第16回	精神保健福祉士の理念と意義	
第17回	精神保健福祉士の専門性と倫理	
第18回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第19回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第20回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第21回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第22回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第23回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第24回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第25回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程	
第26回	チーム医療における精神保健福祉士の役割	
第27回	専門職の役割と機能	
第28回	チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割	
第29回	後期試験	
第30回	試験問題解説	

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)(演習)				担当者名	井上明信	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	前期	単位	2単位(30時間)
実務経験	精神科病院、精神障害者施設(地域活動支援センター等)、相談援助業務(10年間)			資格等	精神保健福祉士、相談支援専門員 等		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

精神保健福祉の知識と技術に係る他科目との関係性も視野に入れ、精神保健福祉士に求められる相談援助について具体的事例を通し実践的に習得すること、専門的援助技術として概念化・理論化・体系を立てていくことができる能力を身につけることを目的とする。ロールプレイング等を中心とする演習形態で行っていく。

【目標】

- ①精神障害者の生活や生活上の困難を理解し、他者へ説明することができる。
- ②相談援助に係る基礎知識と技術について理解し、実践することができる。
- ③実践場面(実習等)の中で活用できる。

《評価方法》

・平常点、課題成果、定期試験等を総合して評価する。

<評価方法の詳細>

- ・平常点(出席状況・受講態度等):30%
- ・課題成果等:20%
- ・定期試験:50%

《履修上の留意点》

- ・授業の妨げとなる行為(私語・居眠り・携帯電話の使用等)は、減点の対象とする。
- ・配布資料については、きちんとファイリングし、紛失することのないよう、自己管理を行う。
- ・課題提出については、期限厳守とする。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神保健福祉援助演習(基礎・専門)	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	新・精神保健福祉士養成講座

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	オリエンテーション	
第2回	社会復帰① 就労移行支援	<p>↑</p> <p>ロールプレイ等を中心とした授業。</p> <p>進捗状況により前後することもある。</p> <p>↓</p>
第3回	社会復帰② 就労定着支援	
第4回	事例 自殺予防について	
第5回	事例 病院に結びつける援助について	
第6回	事例 障害年金の活用	
第7回	事例 セルフヘルプグループ	
第8回	事例 家族に対する支援	
第9回	事例 アルコール依存症	
第10回	事例 認知症	
第11回	事例 ひきこもりの若者支援	
第12回	事例 医療観察法	
第13回	事例 権利擁護	
第14回	事例 更生保護関連	
第15回	精神保健福祉現場実習に向けて、前期授業の振り返り	
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		

科目名	精神保健福祉援助実習（講義）				担当者名	井上 明信	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	4単位(60時間)
実務経験	精神科病院、精神障害者施設(地域活動支援センター等)、相談援助業務(10年間)			資格等	精神保健福祉士、相談支援専門員 等		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

精神科病院・障害福祉サービス事業所等の現場実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、精神保健福祉援助及び障害者等の相談援助にかかる専門的知識・技術等を身に付け、精神保健福祉士としての業務、役割及び、求められる資質、技能倫理等を理解する。

《評価方法》

・平常点、課題成果、定期試験等を総合して評価する。

＜評価方法の詳細＞

- ・平常点(出席状況・受講態度等): 30%
- ・課題成果等: 20%
- ・定期試験: 50%

《履修上の留意点》

- ・当科目への講義出席状況、学習態度等は、現場実習を行うにあたっての意欲を問われるものとなるため、特に重視する。
- ・現場実習に臨むにあたっての目的意識をしっかりと持ち授業に出席すること。
- ・予習・復習をしっかりと行うこと。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名
精神保健福祉援助実習指導・実習	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	新・精神保健福祉士養成講座

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	精神保健福祉援助実習の意義・目的・位置付け等・実習計画書・個人紹介書作成	
第2回	精神保健福祉援助実習の事前準備・計画・事前学習等・実習計画書・個人紹介書作成	
第3回	精神保健福祉援助実習の事前準備・計画・事前学習等・実習計画書・個人紹介書作成	
第4回	精神保健福祉援助実習の事前準備・計画・事前学習等・実習計画書・個人紹介書作成	
第5回	精神保健福祉援助実習の事前準備・計画・事前学習等・実習計画書・個人紹介書作成	
第6回	精神科病院 見学実習①	
第7回	精神科病院 見学実習②	
第8回	精神科病院 見学実習 振り返り	
第9回	精神科医療機関、障害福祉サービス等における精神保健福祉士の業務・役割・専門性・多職種連携等①	
第10回	精神科医療機関、障害福祉サービス等における精神保健福祉士の業務・役割・専門性・多職種連携等②	
第11回	精神保健福祉法・障害者総合支援法等 法律・施策について①	
第12回	精神保健福祉法・障害者総合支援法等 法律・施策について②	
第13回	精神保健福祉法・障害者総合支援法等 法律・施策について③	
第14回	前期試験	
第15回	試験問題解説	
第16回	精神保健福祉援助実習・振り返り、事後学習. ①	
第17回	精神保健福祉援助実習・振り返り、事後学習. ②	
第18回	精神保健福祉援助実習・振り返り、事後学習. ③	
第19回	精神保健福祉援助実習・振り返り、事後学習. ④	
第20回	精神保健福祉援助実習・振り返り、事後学習. ⑤	
第21回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第22回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第23回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第24回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第25回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第26回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第27回	精神保健福祉援助実習報告書 資料作成等	
第28回	精神保健福祉援助実習報告会	
第29回	後期試験	
第30回	試験問題解説	

科目名	福祉総合演習 I				担当者名	井上 明信	
学科	福祉総合学科	学年	3年	学期	通年	単位	8単位(120時間)
実務経験	精神科病院、精神障害者施設(地域活動支援センター等)、相談援助業務(10年間)			資格等	精神保健福祉士、相談支援専門員 等		

《授業内容－意義・ねらい・到達目標－》

本講では、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格に向けての必要な知識の習得を目的としている。さらに資格を取得することの意義・価値の明確化を図り、国家試験合格への動機づけを行うことを目指す。過去の国家試験問題・模擬問題を繰り返しこなし、自身の苦手科目等を把握し、自身の課題を見出していき、自分自身の国家試験の学習方法を確立させていく。

《評価方法》

課題成果＝50% 平常点(出席状況、受講態度)＝50%

《履修上の留意点》

- ・資料の整理と保管に責任を持つ。
 - ・目的意識を持って講義へ参加する。
- ※授業計画については、進行状況等により、予定を変更する場合がある。

《使用教材》

書籍名	著者・編集者名	出版社名	シリーズ名

《授業計画》

	授業内容・課題	備考
第1回	オリエンテーション(授業内容や授業計画、受講の心得等について)	
第2回	国家試験の概要・実力試験	
第3回	科目別出題傾向・ポイントについて 解説等	
第4回	科目別出題傾向・ポイントについて 解説等	
第5回	科目別出題傾向・ポイントについて 解説等	
第6回	科目別出題傾向・ポイントについて 解説等	
第7回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第8回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第9回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第10回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第11回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第12回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第13回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第14回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第15回	実力試験	
第16回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第17回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第18回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第19回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第20回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第21回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第22回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第23回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第24回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第25回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第26回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第27回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第28回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第29回	科目別 社会福祉士・精神保健福祉士過去問題 模擬問題 解説	
第30回	実力試験	

《授業計画》

	授業内容・課題			備考
第31回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第32回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第33回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第34回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第35回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第36回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第37回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第38回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第39回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第40回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第41回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第42回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第43回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第44回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第45回	実力試験			
第46回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第47回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第48回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第49回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第50回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第51回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第52回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第53回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第54回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第55回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第56回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第57回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第58回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第59回	科目別	社会福祉士・精神保健福祉士過去問題	模擬問題 解説	
第60回	実力試験			